

# ロバを売りに行く親子

指導者 大松 浩一  
学 級 3年2組

## 1. 本主題で育む資質・能力

本教材は、イラストが中心の構成となっている。そこで、教材の特質を生かして、教師がイラストを黒板に一枚ずつ提示し教材文を進めていくことで、子どもたちが「次は、どうなるのかな。」「最後、親子はどうするのか。」と、興味をよりにもてるようにした。

教材文は、親子がロバを棒に吊るして運ぶという方法を選んだことによって、ロバが暴れ、川に落ちる結末になっている。もし、結末を知った後に、教師が、感想を問えば「ロバがかわいそうだよ。」と、生命の尊重の考えが、「親子はどうすればよかったかな。」と問えば、「周りの人の考えがいいか悪いか考えるべき。」と、善悪の判断の考えを中心に子どもから発言されることが想定される。

多様な発問が考えられるが、本実践の内容項目は「節度、節制」である。そこで、子どもたちに、親子の行動についてハンドサイン（理解できる、分からない、理解できない）で、どれくらい理解できるかを示させる手立てを打つ。そうすることで、親子の行動と自分だったらという思いにずれをつくり、「どうして、親子は何度もロバを売りに行く方法を変えたのかな。」という、「節度、節制」の阻害条件に目が向く問いを生んでいく。そして、周りの人に何か言われたり、人と違うことをしていたりすると不安になってしまう人間の心の弱さに触れていき、他者の考えを全て受け入れるのではなく、何がよいかを自分で考え判断していきたいという意欲を高めていく。

本主題では「他者の考えを受けとめ、自分で一歩踏み出す力」を育むことをねらう。多様な価値観が存在する中で、他者の考えを受けとめ、自分と異なる視点に対して「その考え方もあるよね。」と、自分の生き方に取り入れられそうか、一度立ち止まる姿を大切にしたいと考えた。そして、「友達が言っていたから」「みんなが持っているから」という他者を判断理由にするのではなく、自分で今必要なことは何かを考え、よりよい一歩を踏み出そうとする意欲や態度を育んでいきたい。

## 2. 主題構成（6時間扱い）

### 【活動Ⅰ】学級活動（1/6）

「学藝会を成功させよう」

- 学藝会後の「自分」を考えさせ、どんな取組や態度で参加するか計画や目標を立て学藝会への意欲を高める。

### 【活動Ⅱ】道徳科「三年元気組」（光村図書）（2/6）

「個性の伸長」

- 自分の特徴に気付き、長所を伸ばそうとする実践意欲を高める。

### 【活動Ⅲ】道徳科「今度はぼくの番かな」（教育出版）（3/6）

「相互理解」

- 自分の考えを伝えることや相手の意見に耳を傾け尊重することの大切さに気づき、相手を理解しようとする実践意欲を高める。

### 学級活動（4/6）

「友達のよいところを見付けよう～学藝会編～」

- 学藝会練習での友達のよさを伝え合うことで、学級全員が自信をもって本番への意欲を高める。

### 【活動Ⅳ】道徳科「ロバを売り行く親子」（教育出版）（5/6）（本時）

- 周りの意見に耳を傾け、自分にとって何がよいかを判断していきたいという実践意欲を高める。

「節度・節制」

### 学級活動（2）（6/6）

「学藝会を終えて～日常生活に生かせそうなこと～」

- 学藝会の取組を振り返り、これからも続けていきたい考え方や行動などの目標を立てる。

## 育成する資質・能力

他者の考えを受けとめ、自分で一歩踏み出す力

### 3. 本時の目標 (5/6)

なぜ、親子がロバを売りに行く方法を変えたのかを考える活動を通して、周りの人に何か言われると不安な気持ちになるが、最後は自分で何がよいかを判断していきたいという実践意欲を高める。

### 4. 本時の展開

学 習 展 開	教師の関わり
<p>○【前時まで】他者のよさを見つけたり、自己のよさを伸ばしたりしたいという意欲が高まっている。</p> <p>○ロバを売る場合、市場までどのような方法で行くか考える。</p> <p>ロバに乗って市場まで行くかな。</p> <p>売るロバを汚したくないから、一緒に歩く。</p> <p>○ロバに乗らず、親子で歩いていることについて考える (途中で区切る)。</p> <p>ロバに乗った方が楽なの。</p> <p>もっと他にやり方があるよ。</p> <p>ロバが汚れないようにしてるのかな。</p> <p>○結末 (ロバを棒に吊るして歩く) について考える。</p> <p>棒に吊るすのは、やりすぎだよ。</p> <p>周りの人は文句言い過ぎ。</p> <p>ロバがかawaiiそうだよ。</p> <p>他にやり方があるのに、どうしてだろう。</p> <p>一番信じられない方法で運んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だったら、どのようにロバを売り市場まで運ぶかと投げ掛け、子どもたちの考えを黒板に位置付ける。そうすることで、教材文の結末とのずれをつくり、問いへの足掛かりにする。</li> <li>テレビ画面に1枚目の絵を提示し、「おかしな親子」と周りから言われていることを伝える。そうすることで、「何かおかしいのかな。」という教材に対する興味を高めさせる。</li> <li>結末を知った後に、導入時での考えを取り上げ、問いへの足掛かりにする。</li> <li>親子の行動に理解できる、分からない、理解できないをハンドサインで示させることで、登場人物の行動と自分の思いからずれをつくり、問いを生む。</li> <li>「どうして、親子は何度も方法を変えたのかな。」という問いを追究していくことで、周りに流されてしまう原因を引き出していく。</li> <li>多くの子が「周りの考えに、流されている。」という考えを発言することが予想される。そこで、「周りの人の考えは取り入れない方がいいのかな。」と、問い返し、度が過ぎると後悔をしたり、失敗したときに責任転嫁したりする気持ちになってしまうという考えを取り上げることで、自分で考え判断していくよさに目を向けさせていく。</li> </ul>
<p><b>どうして、親子は何度もロバを売りに行く方法を変えたのかな。</b></p> <p>周りに考えを取り入れ過ぎたんだよ。</p> <p>何が正しいか、分からなくなったんだよ。</p> <p>周りから言われると不安になる。</p> <p>自分のやり方が間違っていると思った。</p> <p>考えを取り入れようとしたのはいいけど…</p> <p>私も周りから言われたら不安になるよ。</p> <p>やりすぎるのはよくないよね。</p> <p>もっと自分に自信をもっていいのに。</p>	
<p><b>親子は、不安になったんだね。でも、言われたことを全部取り入れるのはよくない。自分で考えないからね。</b></p> <p>○周りから様々な考えを言われたらどうするか考える。</p> <p>(学藝会の練習) 友達にももらった演技のアドバイスも、自分で考えて取り入れていく。</p> <p>(学藝会の練習) 友達に演技のアドバイスももらったなら、絶対取り入れてしまっている…。</p> <p>いいと思ったら、取り入れていく。</p> <p>全部は取り入れない。自分で判断する。</p>	
<p>○振り返りを書く。</p>	